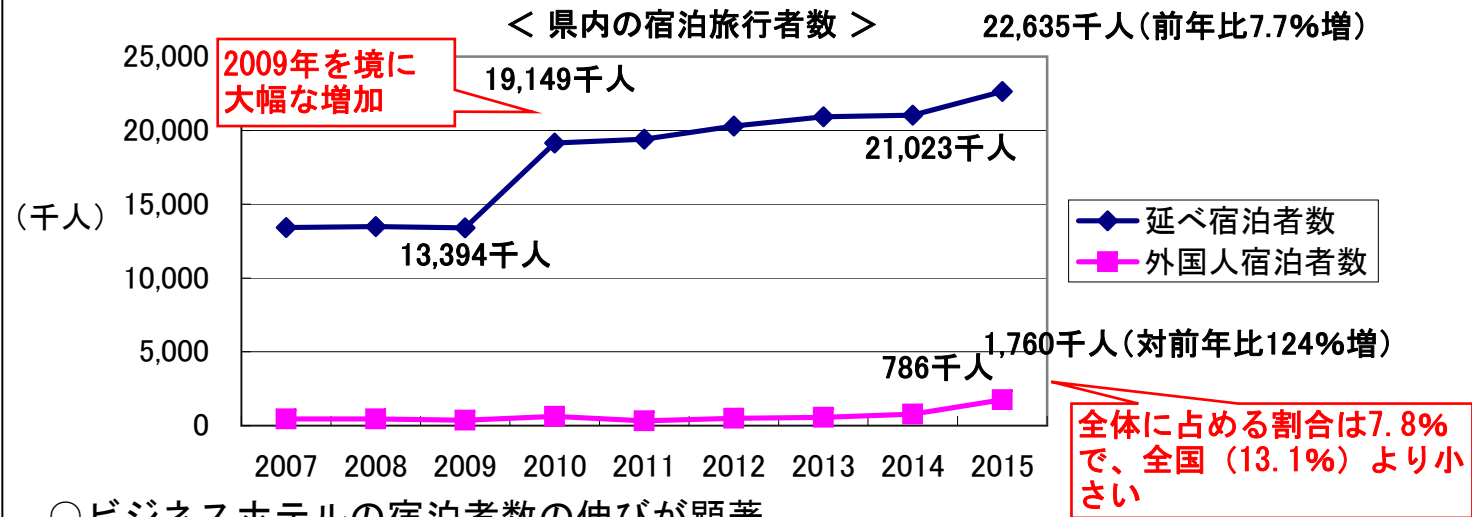


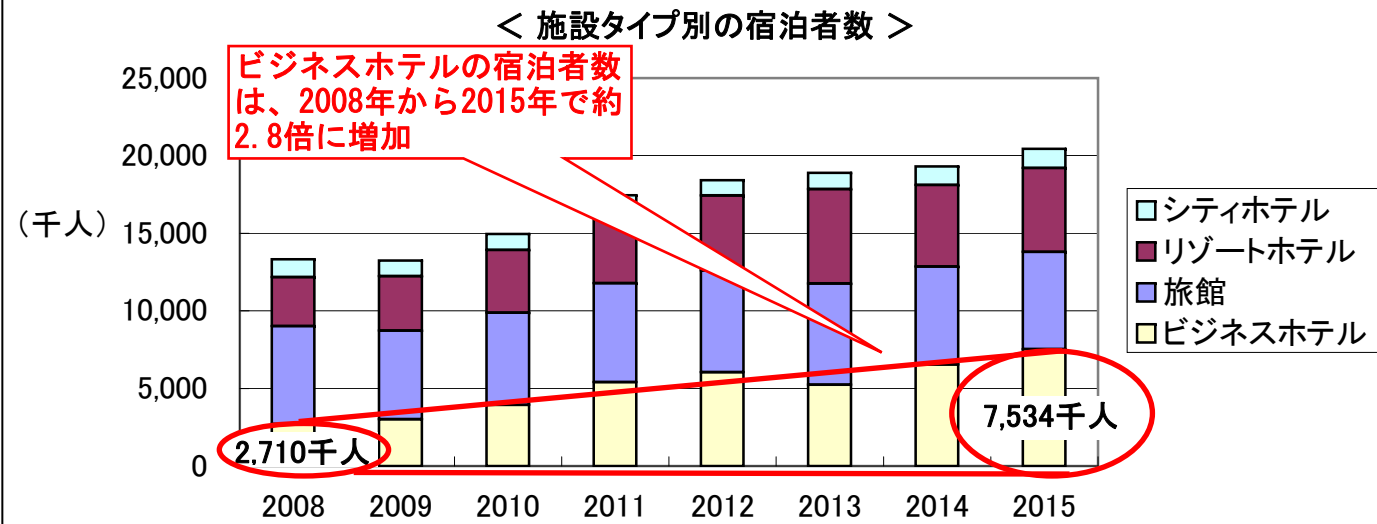
宿泊機能等に係る市場動向調査結果の概要

(1) 静岡県内の宿泊者の状況

- 静岡県内の宿泊者数は、2009年を境に大幅に増加し、その後微増で推移するが、2015年は対前年7.7%の増加。
- 外国人旅行者は、2015年に対前年で124%増と大きく増加。宿泊者全体に占める割合は7.8%と、全国13.1%と比べ低い。

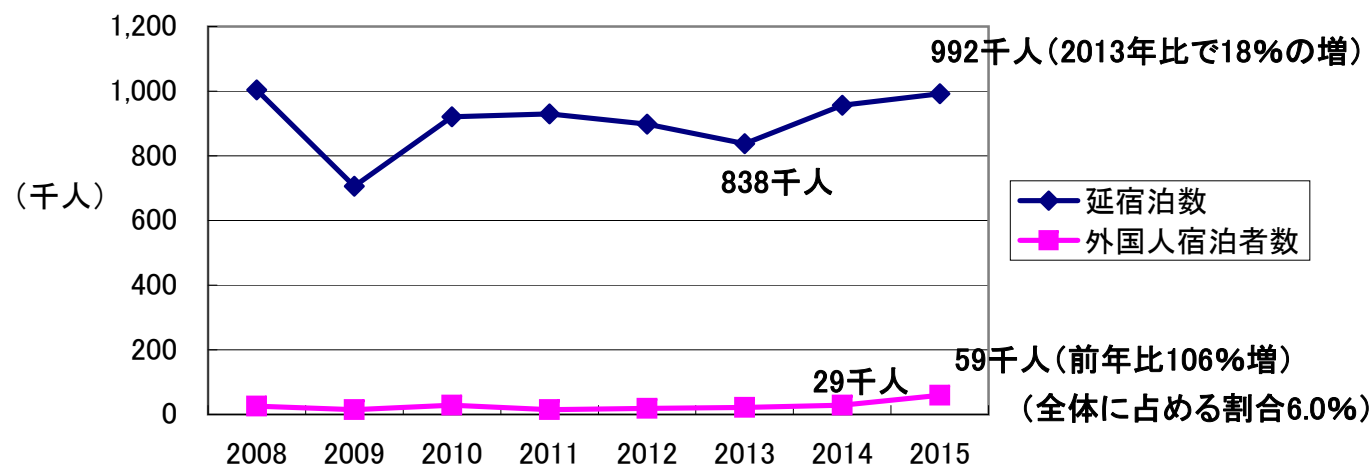


○ビジネスホテルの宿泊者数の伸びが顕著



(2) 静岡市内の宿泊者の状況

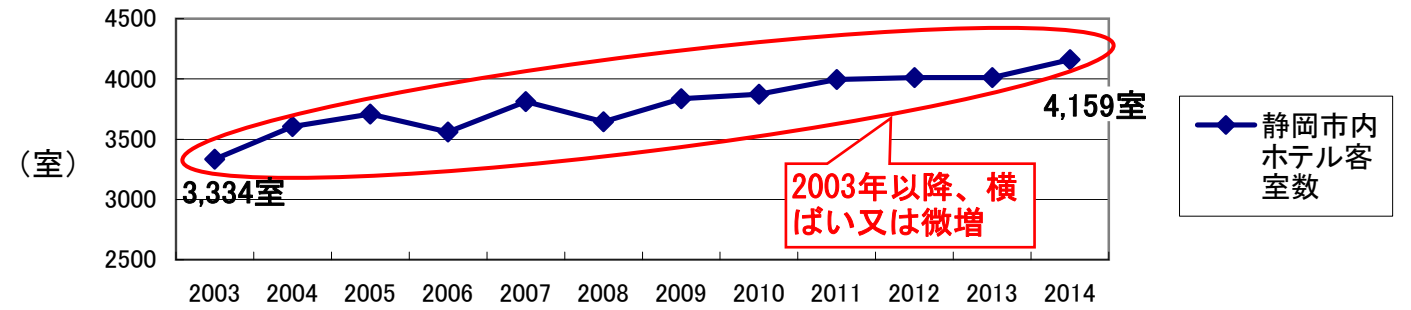
- 静岡市内の宿泊者数は、2013年以降増加し、2015年は2013年比で18%の増加。
- 外国人旅行者は県全体と同じ傾向で、2015年に対前年で106%増と大きく増加。



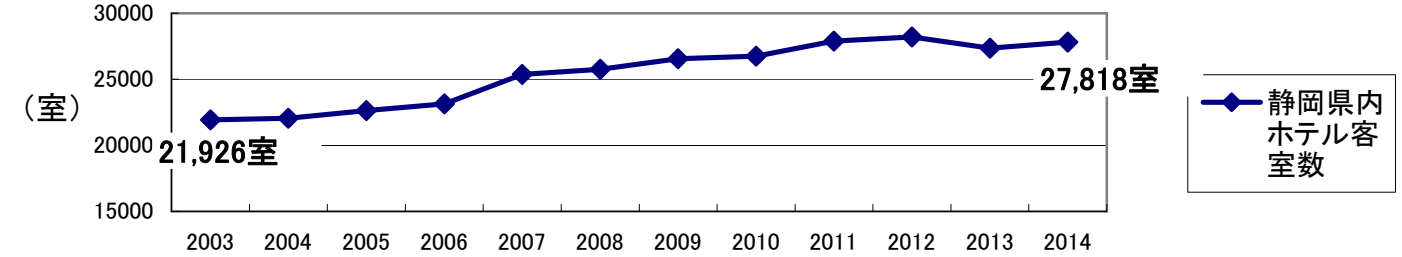
データ出典: 観光庁宿泊旅行統計調査

(3) 静岡市内のホテル客室数の推移

- 2003年以後、横ばい又は微増の状況。



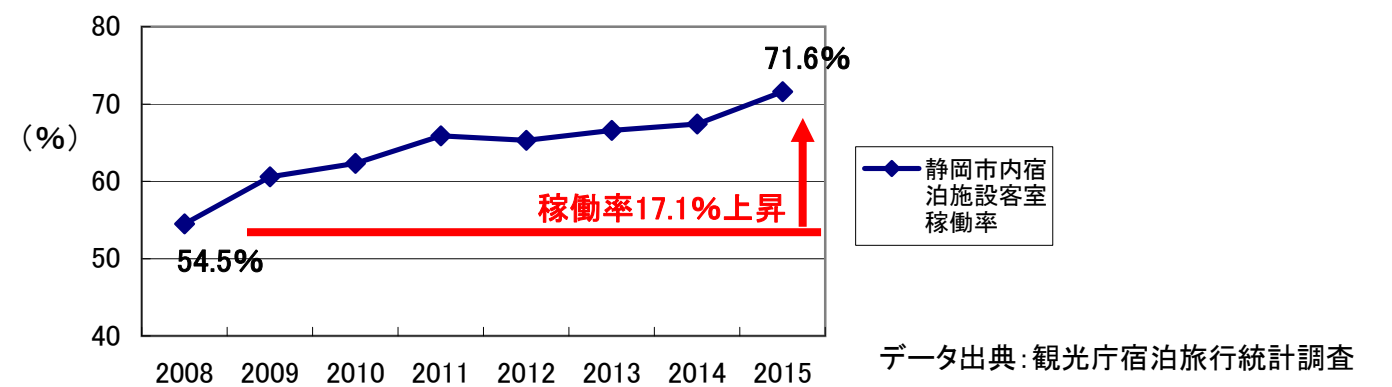
＜参考＞静岡県内のホテル客室数の推移



データ出典: 厚生労働省衛生行政報告例

(4) 静岡市内の宿泊施設の客室稼働率

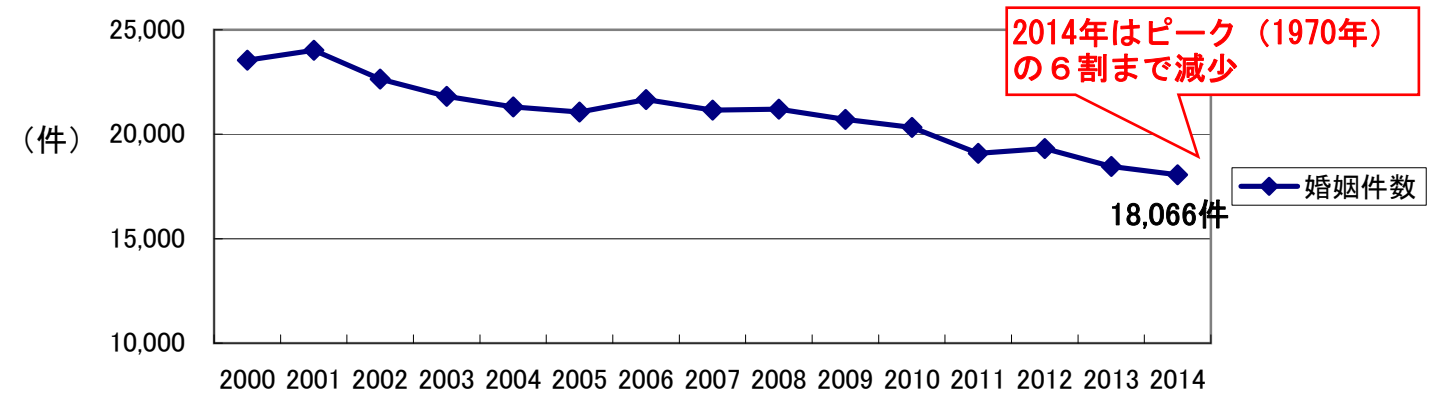
- 静岡市内の宿泊施設平均の客室稼働率は上昇傾向にあり、2015年は70%を超える。



データ出典: 観光庁宿泊旅行統計調査

(5) 婚礼需要の状況

- 静岡県内の婚姻件数は減少傾向にあり、2011年から20,000件を割り込む。



データ出典: 総務省人口動態統計

静岡市内宿泊施設への聞き取り調査結果 (概要)

		客室稼働の状況	宿泊客の目的	インバウンド増加の影響	バンケット需要	料理飲食（レストラン）需要	東静岡のポテンシャル
静岡駅周辺	ホテルA	<ul style="list-style-type: none"> 客室稼働率は高い状況、客室単価も上昇傾向。 平日の稼働率90%超。日曜日の稼働率も含め平均80%前後 ほぼ満室の稼働状況 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス客中心 	<ul style="list-style-type: none"> 中国、台湾を中心に外国人宿泊客は伸びている 宿泊客の10%程度が外国人 	<ul style="list-style-type: none"> 結婚式、企業の宴会ともに厳しい 少子化、若年層の流出、ゲストハウスの増加、ニーズの多様化が原因 新たな設備投資等を行い、対応している 	<ul style="list-style-type: none"> 地元の方々の利用が多い 客は料理の質を求めている 	<ul style="list-style-type: none"> グランシップの稼働率が高まり、普段からの賑わいがないと厳しい 現在の稼働状況なら、既存のホテルで宿泊は賄えてしまう アフターコンベンションが出来る場所があっても良い
	ホテルB	<ul style="list-style-type: none"> ホテルの稼働率は上昇、客室単価も上昇 ビジネス客中心のため、日曜日の稼働率は下がる グランシップやツインメッセで大きなイベントがある時は満室 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス客中心 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人宿泊客は以前に比べて30%程度増加 外国人の宿泊需要は安定した需要と考えていない 	<ul style="list-style-type: none"> 結婚式は厳しい 駅周辺に式場が多く、客の取り合い。規模の小さい披露宴が主流 一般宴会は件数が減少し、苦戦 	<ul style="list-style-type: none"> レストラン営業は前年並み 利用者は宿泊者ではなく、外からの利用で、家族連れや主婦が多い 設備投資、人件費、材料の仕入れなど、非常に厳しい状況 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡市街地と東静岡を同じマーケットと捉えると宿泊需要はある 宿泊と夜の食事をセットで考えない人にとっては需要を満たせる
	ホテルC	<ul style="list-style-type: none"> 客室稼働率は高く、客室単価は上昇傾向 平日の稼働率は90%程度、土曜日の稼働率は95%程度、日曜日の稼働率は30~40%に下がる グランシップでイベントがある時はホテルが不足 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス客中心 土曜日は、ビジネスの他、市内の結婚式出席者の宿泊需要あり 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年から外国人宿泊客の利用が増加 アジア、アメリカからの個人旅行者が多く、月間100人程度の利用 	/	/	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊特化型なら可能性がある グランシップを使う人にとって側にホテルがあるのは便利 無料の駐車場を売りにすれば客が入る 大型バスの駐車場があると強みになる コンベンションの需要だけでは経営は難しい
	ホテルD	<ul style="list-style-type: none"> 静岡市内ではホテルが不足 客室単価も稼働率も高い状況 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス客中心 	<ul style="list-style-type: none"> 安定需要は日本人ビジネス客で、外国人は安定需要とは考えていない 	/	/	<ul style="list-style-type: none"> 静岡駅から東静岡駅に一駅移動するものの、グランシップ、マークイズ、結婚式場等がありポテンシャルはある グランシップ等でのイベントが増えれば、コンベンション施設に近接しているメリットを求める人もいる
東静岡から日本平に至る地域	ホテルE	<ul style="list-style-type: none"> 稼働率は80%程度 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス客中心。車を利用するメーカー系の利用 土日の利用はスポーツ大会や練習で来る学生の利用が多い 社員研修での利用もある 県内や名古屋、神奈川など比較的近隣からの利用が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人宿泊者は、平成27年9~10月頃は多かったが、現在は減少 月3件程度の団体客を受けている状況 	/	/	<ul style="list-style-type: none"> 静岡駅周辺には多くのホテルがあり、敢えて一駅移動して泊まる客がいるかどうか疑問 宿泊客にとって一駅でも移動は大変
	ホテルF		<ul style="list-style-type: none"> 観光目的で来る客が中心 50代以上が多く、5割は関東、2割が県内 グランシップの会議等での宿泊客はほとんどない 	<ul style="list-style-type: none"> インバウンドは増加しているが全体の10%程度 グループ旅行は台湾程度であまり多くない 	<ul style="list-style-type: none"> 結婚式の需要はピークに達している 結婚式をメインにしているが、ブライダル業界は縮小している 一般宴会は、件数が減少し苦戦 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の7割が県内、2割が関東や名古屋 レストランを目的に来る人が多い 特にランチが人気で、平日でも客数は安定している 	<ul style="list-style-type: none"> 東静岡が魅力ある地域になるとホテルの営業的に望ましい 静岡駅から東静岡駅への移動はさほど不便でない